

絲綢之路

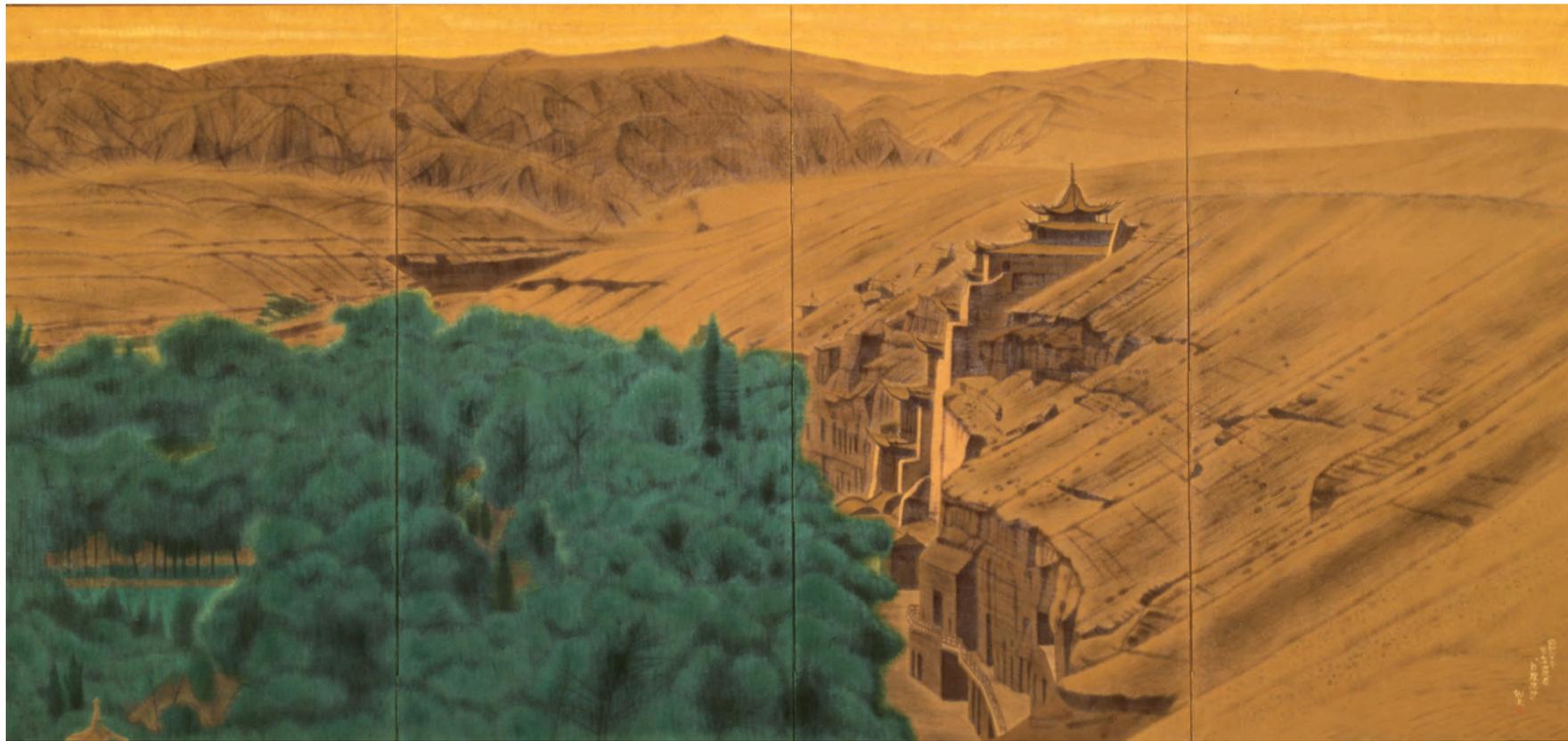
シルクロード

S I L K R O A D

2022-秋

No.100

●表紙の画および題字は、
故・平山郁夫画伯のご厚意により
ご提供いただいているものです。



敦煌鳴沙 1985年



【葡萄唐草模様について】

古代、ペルシャ、コーカサス生まれの葡萄が蔓草と一つになり、西へ、東へ、シルクロードを経て東西の文化を彩る文様となりました。私どもの財団ではシルクロードを中心に、世界の文化に寄与できればと、この葡萄唐草文様をシンボルマークにいたしました。

●シンボルマークデザイン：吉田左源二

この度は、第100号の発刊、誠にありがとうございます。100号にまで及ぶ「絲綢之路」の頁を繰ると、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団の長い歴史と歩みを知ることができます。

その長い歩みの中では、文化芸術が危機的な状況を迎える場面もありました。私が文化庁長官に着任したのは、まさに新型コロナウイルスが猛威を奮い始めた時期でした。緊急事態宣言が発令され、美術館・博物館をはじめ、あらゆる文化芸術関係の公演や施設に無観客化や休業をお願いすることになり、非常に心苦しい日々が続きました。緊急事態措置の延長に当たっては、文化芸術こそが心の支えであり、文化芸術活動の休止はあらゆる手段を尽くした上での最終的な手段であると声を大にして訴えました。少しずつ活動が再開され、文化芸術でも大きな補正予算が組まれるに至りました。今も厳しい環境の中で、活動の制約はあるものの、脈々と文化が受け継がれた創造されている姿は、ひとえに文化芸術の持つ大きな力所以であると思います。

こうした未曾有の危機は、東日本大震災や熊本地震といった災害でも経験してきました。平成二十三年三月の東日本大震災の発生後には、被災した文化財等を緊急に保全し、廃棄・散逸や盗難の被害から防ぐため、文化庁は「文化財レスキュー事業」を開始し、美術工芸品等の動産文化財を中心とした被災文化財等の一時避難・応急措置を実施、

併せて開始した「文化財ドクター派遣事業」では、被災した建造物の修復手法等に係る技術的支援等を実施してきました。こうした取組は熊本地震災発後の活動にも引き継がれました。この間の活動資金として、財団には窓口となっていたいただき、結果、多くの御寄付をいただいで復興が大きく進んでいるところとです。

財団が文化遺産保護に果たされている重要な役割は、国内に留まりません。故平山郁夫先生の理念に基づき、国境を越えた文化遺産の保護にも大きく貢献してこられました。中でも、敦煌への支援は特筆されるべきものと思います。財団の支援により、日中多くの若手専門家が敦煌で学び、育ち、今も各地の文化遺産修復の第一線で活躍しています。他にもアンコール遺跡やバーミヤン遺跡など、危機に瀕する多くの文化遺産の救出に携わってこられました。さらに、在外日本古美術品修復活動への支援も、海外における日本文化の理解に不可欠な活動です。

国境に関わりなく、様々な危機を乗り越えながら、平山先生が道筋を示された「文化財赤十字構想」の灯を絶やさず次世代につなげていくことは、私たちの大切な責務と考えております。今後とも、財団におかれては、文化芸術支援と国際文化交流、ひいては、その先にある新たな文化の創造を力強く支えていただくことを願い、100号へのお祝いの御挨拶とさせていただきます。

「絲綢之路」100号に寄せて

筆者略歴

昭和23年6月21日生	出身地 東京都
昭和46年	学習院大学法学部卒業 (大学在学中に作曲家デビュー)
同年	この年より日本テレビ「スター誕生」の審査員を務める
同 47年	日本レコード大賞 受賞
同 53年	日本レコード大賞 受賞
同 55年	都倉俊一ブランドオーケストラを設立
平成6年	ロンドン・ウェストエンドにて日本人作曲家として初のミュージカル「OUT OF THE BLUE」初演
同 7年	社団法人日本作曲家協会理事
同 21年	社団法人日本作曲家協会常務理事 (平成23・5まで)
同 22年	一般社団法人日本音楽著作権協会会長 (平成23・5まで)
同 23年	文化庁文化審議会委員及び、文化審議会著作権分科会専門委員
同 24年	古事記1300年記念新作能「出雲舞臺」に楽曲を作曲、イスラエル公演を実現
同 26年	昭和音楽大学客員教授(令和3・3まで)
同 27年	国際音楽創作者評議会執行委員 (令和3・3まで)
同年	横綱審議委員会 委員
同年	日本美術協会 高松宮殿下記念世界文化賞選考委員会
同 28年	一般社団法人日本音楽著作権協会特別顧問 (令和3・3まで)
同年	アジア・太平洋音楽創作者連盟執行委員会会長 (令和3・3まで)
同 30年	文化功労者
令和3年	文化庁長官



文化庁長官
都倉俊一
(とくら・しゅんいち)

日光の社寺 (東照宮本殿と上神庫の彫刻)



ユネスコ世界遺産 (文化遺産) シリーズ

撮影・仙波志郎

日光の社寺とは、日光東照宮、日光二荒山神社、日光輪王寺の二社一寺を指す。世界遺産として登録されたのは、一九九九年。社寺の中で、その中心的存在が江戸幕府の創設者である初代将軍・徳川家康の霊廟でもある東照宮。

家康は死後、神格化され、朝廷より東照大権現の神号と正一位の位階を賜っている。したがって、家康は仏さまではなく、神さまとして祀られているのである。

東照宮の社殿は江戸幕府・徳川政権の威信を天下にあまねく誇示するため、壮麗華美である。それは当時の日本の建築、美術工芸技術等の粋が集積されている。

東照宮の建築群の特徴の一つに様々な動物の木彫像がある。なかでも左甚五郎の作と伝えられる「眠り猫」や「見ざる、言わざる、聞かざる」で有名な「三猿」が名高い。ここに掲載した象は、宝物や祭礼用の用具が納められている上神庫に飾られているもので、この黄金の牙をもった象の彫刻のための下図は、本物の象を一度も見たことのない狩野探幽が描いている。ゆえに「想像の象」と呼ばれている。

よみがえる故郷のたからもの

津波により被災した 吉田家文書（気仙郡村絵図）の修復

東日本大震災の津波によって
大きな被害をうけた吉田家文書。
東北地方の郷土史研究の一級資料が
今、よみがえるまで……。

京極ファンドへの感謝

京極夏彦様から頂戴いたしました御寄附につきましては、当市の貴重な歴史資料である「吉田家文書（気仙郡村絵図）」の修復のために活用させていただきます。



京極ファンドについて記者会見する京極夏彦氏。隣りは宮田亮平理事長（2011年）

修復が完了した資料については、令和四年十一月に開館を控える当館において公開し、適切に管理するとともに調査・研究活動等に役立てていきたいと考えております。今回の御寄附に改めて感謝申し上げます。

げますとともに、関係者の皆様のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。御礼とさせていただきます。

修復された吉田家文書 （気仙郡村絵図）について

(1) 吉田家とは

吉田家は、現在の岩手県陸前高田市気仙町今泉地区に居を構え、仙台藩領気仙郡の二十四ヶ村（陸前高田市、住田町、大船渡市、釜石市唐丹）を統括してきた家で、郡奉行や代官の指導のもと、実質的に郡政を任されていました。初代吉田宇右衛門（築後）が元和六（一六二〇）年に伊達政宗より大肝入（租税事務などを担当する役人）に任命されて以来、一部の期間を除き、明治に至るまで吉田家当主が代々大肝入を世襲してきました。

享和二（一八〇二）年には気仙郡の御郡棟梁を務めた出入りの大工、今泉村の七五郎が建築した住宅は「吉田家住宅」と呼ばれ、解体されることなく、多くの人々に愛され大切に保存されてきました。平



技術者による気仙郡村絵図の修復作業

継続してきました。併せて、資料を長期的に安定した状態で保管するため、劣化要因を取り除く安定化処理方法の構築が関係機関で続けられてきました。

（二〇一七）年から平成三十（二〇一八）年に東京国立博物館で実施した経過観察によって、塩分に加えタンパク質の残留が確認され、併せて一部資料から異臭の発生が認められました。以降、残留する異物の除去方法の確立に努めてきましたが、ようやくその目的が立ったため、令和三（二〇二二）年に当該資料の本格修復を実施することとなりました。

今回の修復では、本紙の保存性をより高め、安全に活用出来る状態にすることを目的とし、可能な限り旧裏打ち紙を除去して、楮紙により数層の裏打ちを施し、補填や補強、補彩などの補修が行われました。

よみがえる故郷のたからもの

吉田家住宅は、気仙郡村絵図と同様に大津波の被害を受け全壊しましたが、被災後に回収した部材を調査した結果、復旧のための使用が可能であることが判明しました。

これを受け岩手県教育委員会は、平成三十（二〇一八）年十二月に部材の残存率等を踏まえて、土蔵、味噌蔵、納屋（長屋）の附属屋三棟を除く、主屋一



復旧作業が行われている旧吉田家住宅主屋

棟について文化財指定を継続するとして、上で、指定名称を「吉田家住宅」から「旧吉田家住宅主屋」へと変更しました。現在、旧吉田家住宅主屋は、令和七年五月の公開を目指し、復旧作業が行われています。

大災害の中、奇跡的にレスキューされた気仙郡村絵図や、復旧に向けた作業が進められている旧吉田家住宅主屋は今泉をはじめとした、地元市民に希望を与え、とともに、失われた郷土の歴史文化、並びに風土を復興していくための大切な糧になるものです。今後は、今回修復が完了した気仙郡村絵図について、藩政時代の気仙地方の歴史解明を目的とした調査・研究活動に役立てていくとともに、積極的な公開に努め、今後、完成を控える旧吉田家住宅主屋とも連携し、地域に伝わる歴史文化の価値と保護への理解促進に努めていきたいと考えています。

筆者略歴

- 二〇一五年 北里大学海洋生命科学部修士課程 卒業
- 二〇一六年 陸前高田市教育委員会生涯学習課 主事
- 二〇一七年 陸前高田市立博物館 主事兼学芸員

陸前高田市立博物館
主事兼学芸員
浅川 崇典
(あさかわ・たかのり)



成十八（二〇〇六）年九月には、藩政期の歴史を知る数少ない遺構として、主屋、土蔵、味噌蔵、納屋（長屋）の一件四棟が岩手県指定有形文化財に指定されました。



修復が完了した気仙郡村絵図（高田村）

国際的に前例のない津波 被災絵図の修復

(2) 気仙地方の歴史解明の鍵を握る吉田家文書
吉田家には、藩からの命令伝達や諸経費の割り当て・納入、諸村から藩への陳情の取りまとめ等を実施し、「定留^{じょうりゅう}」など題された政務日誌や、気仙郡の村々を描いた「絵図」が保存されていました。特に、絵図については、徳川幕府が治政上の必要から各大名に命じ、慶長十（一六〇五）年、正保元（一六四四）年、元禄十（一六九七）年、天保六（一八三五）年の四回にわたり国絵図の作成事業を行った際に合わせて仙台藩によって作成されたものであり、村の境界の確定と荒地の把握、天明の飢饉以降の農村荒廃地を克明に記した貴重な資料です。これらの資料は、当時の仙台藩、特に気仙地方の歴史を解明していく上で非常に重要な資料であることから、平成七（一九九五）年に岩手県指定有形文化財に指定されました。

吉田家文書（気仙郡村絵図）は、平成二十三（二〇一）年三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う津波によって被災しましたが、幸いなことに多くが流出を免れ、文化財レスキューによって岩手県立博物館に搬送されました。

当絵図は、染料や顔料が多用されていたことから、水への浸漬による色材料の溶損が懸念されたため、救出直後、流水による表面洗浄のみを施し、固着する異物を除去した後乾燥し、経過観察を



被災した吉田家文書のレスキュー

東京国立博物館の一五〇年

博物館は、その国の文化のレベルを知る
バロメーターである。
世界に冠たる「トーハク」は、
いかにして生まれたのか……。

博物館の誕生

令和三年のNHK大河ドラマ「青天を衝け」は、資本主義の父と称えられる渋沢栄一が主人公でした。その渋沢の人生を大きく変えたのが、慶応三年（一八六七）パリで開催された万国博覧会への参加です。武蔵国の血洗島村に生まれた渋沢が、パリでの見聞に触発されて、のちに見せる八面六臂の活躍は、大河ドラマの見どころの一つでした。

このときパリを訪れた人物に、町田久成（一八三八～九七）がいました。町田は欧州の近代的な博物館を目の当たりにして、日本の文化力を世界に発信するとともに、廃仏毀釈によって危機的な状況にあった文化財を救済したいと切に願い、博物館建設の壮志を抱いて、東京国立博物館の初代館長となった人物です。当時、町田は博物館に加え、植物園、動物園、図書館の機能を備えた壮大な構想を描いていました。



図A 博覧会に出品された金鯢の前の博覧会関係者

明治三年（一八七〇）夏、オーストリア・ハンガリー帝国政府は明治の新政府に対して、三年後にウィーンで開催される万国博覧会への参加を要請してきました。そこで政府は国内の特色ある物品を集め、明治五年（一八七二）三月十日、ウィーン万国博覧会の前年に湯島聖堂の大成殿で博覧会を開催しました（図A）。東京国立博物館は、この博覧会の開催をもって創設としていきます。今を遡ること一五〇年前、東京国立博物館は世界とのつながりの中で誕生



図B 崩壊した旧本館



図C 関東大震災直後の玄関前の美術部職員

念して、表慶館が開館しました。

この帝室博物館の時代に関東大震災が発生し（一九二三）、表慶館は難を免れたものの、本館は一部の天井が抜け落ちるなど、大きく損壊しました（図B・C）。当時は文化財の保護もさることながら、多くの人々の救助を最優先し、構内で避難者に炊き出しをしています。二年後には、自然史関係を扱う天産部の収蔵品を現在の国立科学博物館などに移管し、歴史美術博物館の性格を鮮明にしました。

広く国民から浄財を募り、足掛け七年の工期を経て、昭和十三年（一九三八）に「日本趣味ヲ基調トスル東洋風近世式」の復興博物館、すなわち現在の本館が開館しました。しかし、三年後に太平洋戦争が開戦されると、戦禍を避けるため美術品を梱包し、福島の旧高松宮翁島別邸をはじめ、京都・岩手などの地に疎開して、この難局を乗り越えました。

新たな博物館へ

新憲法が公布された昭和二十二年（一九四七）、帝室博物館は皇室の手を離れて国に移管され、再び文部省

の所管となつて国立博物館と改称、五年後に東京国立博物館と改称されました。昭和三十九年（一九六四）の法隆寺宝物館（旧館）の開館を経て、文化庁の所管となった昭和四十三年（一九六八）には、日本を含む東洋美術の殿堂とすべく、東洋館が開館しました。その間、昭和四十年（一九六五）には、黄金のマスクをはじめとする古代エジプトの秘宝を集めたツタンカーメン展が開催され、一三〇万人近い来館者数を記録しました。昭和四十九年（一九七四）には、田中角栄首相とポンピドゥー仏大統領との会談で実現したモナ・リザ展が開催されました。一五〇万人を超える来館者数は、現在も歴代展覧会の最高峰となっています。

平成十一年（一九九九）、今上陛下のご成婚を記念して平成館が開館、この年に法隆寺宝物館の新館も開館しました。平成十三年（二〇〇一）には、独立行政法人、平成十九（二〇〇七）には、独立行政法人国立文化財機構の所屬となり、近年は来館者倍増計画を達成し、「トーハク新時代プラン」を策定して、種々のアクションプランの実現に取り組んでいます。

ところが、世界中を席捲した新型コロナウイルスの感染は拡大の一途をたどり、令和二年（二〇二〇）二月二十七日から、当館は臨時休館のやむなきに至り、六月二日から順次開館。翌年も四月二十五日から五月三十一日まで、臨時休館を余儀なくされたのは、皆さまもご承知の通りです。

令和四年、東京国立博物館は開館一五〇年を迎えました。ここに改めてこれまで当館をご支援してくださった全ての方々に衷心より感謝を申し上げます。

したということができません。

博覧会の開催に尽力した田中芳男（一八三八～一九一六）は、町田と共に渡仏し、東京国立博物館の第二代館長を務め、日本の博物館の父として知られています。

明治十五年（一八八二）、イギリス人建築家ジョサイア・コンドルの設計による旧本館は、幾多の紆余曲折を経ながらも、現在の上野公園に開館し、その活動を本格化させてゆきます。

皇室と博物館

博物館の所屬は、文部省から内務省、農商務省、宮内省へと移管し、明治二十二年（一八八九）に帝國博物館、明治三十三年（一九〇〇）に東京帝室博物館と改称されました。国家の文化的象徴であった博物館は、皇室の宝物を護る美の殿堂と位置付けられたのです。明治四十二年（一九〇九）には、大正天皇のご成婚を記



東京国立博物館 副館長
富田 淳
(こみた・じゅん)



図D 次の150年にむけて、新しい一歩をあなたと
(東京国立博物館創立150年記念
キービジュアル)

東京国立博物館はいつの時代でも、変わることなく文化財の収集保管、展示公開、調査研究に取り組み、文化財の魅力をさまざまな形で発信するとともに、最新技術の導入、新たな研究領域の開発、文化財活用の充実など、つねに時代や社会の変化に応じた博物館活動に挑戦しています。

一五〇年を迎えた本年を起点として、東京国立博物館は皆さまとともに、新しい一歩を踏み出します。当館がより多くの人々とつながり、日本がより広い世界とつながり、お互いに多様な価値観を尊重する社会のなかで、日本の文化は新たな光彩を放つようにならう。当館のこれからの歩みに、どうぞご期待ください【図D】。

筆者略歴

一九六〇年茨城生まれ。専門は中国書論書史・日中書法交流史。中国浙江美術学院・筑波大学大学院博士課程芸術学研究科修了。一九九〇年より東京国立博物館に勤務。学芸研究部長、学芸企画部長を経て、二〇二〇年に九州国立博物館副館長、二〇二一年より現職。特別展「書聖王羲之」(二〇二三)、「顔真卿」(二〇一九)などを手掛けた。近著に『もっと知りたい中国美術』（共著・東京美術、二〇二二）、「趙孟頫蘭亭十三跋の焼残時期について」（『東風西声一七』九州国立博物館、二〇二二）などがある。

ボストン美術館の 日本美術総合調査図録刊行によせて

美術館の中の美術館。
ボストン美術館が収集した
膨大な数の日本美術の全貌が
ついに明らかに……。

はじめに

一九九一年から三度にわたり公益財団法人鹿島美術財団の援助により行われた、ボストン美術館に収蔵されている日本美術作品の調査結果をまとめた総合図録です。古代の仏画、仏像から明治の近代絵画まで約三〇〇〇点の制作年代、法量、落款、調査者による所見などの詳細データと約三五〇〇点の画像が収録された、世界に類を見ない日本美術の宝庫ともいへべき貴重なコレクションの全貌を一冊にまとめました。

※ ※ ※

ボストン美術館のプロフィール

ボストン美術館は、アメリカ東部マサチューセッツ州にある。王室や大富豪のコレクションを基礎に設立された美術館とは異なり、フロンティア精神に富むア

メリカらしく、地元有志によって一八七〇年に設立された。

開館は、アメリカ独立百周年にあたる一八七六年。民間の組織として運営されていて、その所蔵する作品数は五〇万点を超える。

ボストン美術館には、明治時代後期に収集された仏画、仏像、仏具、能面、絵巻物、浮世絵、水墨画、刀剣など多岐にわたる日本美術品が七万点ほどあるとみられていた。ボストン美術館が、海外における最高・最大の日本美術のコレクターといわれる所以である。

これらコレクションの八割は明治時代に来日したアメリカ人医師ウイリアム・ビゲローや日本美術研究者のアーネスト・フェノロサ、動物学者のエドワード・モース、加うるに岡倉天心らの協力によって収集したものといわれている。

余談だが、モースは大森貝塚の発見者として、また縄文土器の名付け親としても知られる。

フェノロサと天心の師弟関係は、よく知られている

経緯

一九九一年、鹿島美術財団の援助のもと、美術史家の辻惟雄東京大学名誉教授ほかによる日米合同の共同プロジェクトが始まり、日本人各分野の有力研究者約二十五名が派遣され、未整理分を含む約五〇〇〇点を一点ずつ調査した。初期狩野派、江戸時代狩野派、琳派、肉筆浮世絵、円山四条派、南画、曾我蕭白、伊藤若冲など人気の絵師の作品もある。第一次の大きかりな調査は一九九四年に終了し、一九九七年に図録第一



2019年 調査時の写真

巻が刊行され、その後、第二次調査が進み二〇〇三年には第二巻も刊行された。

絵巻物や円山四条派、南画などの第三次調査の成果が諸般の事情により未完となっていたが、その後、辻惟雄氏の希望でライフワークとして集大成となる第

多くの研究者の 協力のもとに……

三次調査分の出版を故鹿島昭一理事長との話で進めることとなった。今回の調査図録は、第一次、第二次調査に加え、第三次調査で明らかになった学術的知見を盛り込むことで、絵画、彫刻、工芸にわたる主要なジャンルを網羅するものに仕上がった。

現在、所蔵品情報や写真の公開は紙媒体からウェブへと大きく軸足を移しており、ボストン美術館も利便性の高いウェブサイトを運用している。しかし、物理的にページをめくりながら作品群を俯瞰的に把握できる点は紙媒体の大きな長所である。

今回の刊行では、辻惟雄氏、高階秀爾大原美術館館長、河野元昭静嘉堂文庫美術館館長ほか関係する先生方の指導を受けながら、ボストン美術館のアン・ニシムラ・モース、シニア・キュレーターに第一次、第二次につづく協力を得て、若い世代の新たな研究チームとして、高岸輝東京大学教授をチームリーダーに、梅沢恵神奈川県立金沢文庫主任学芸員（絵巻群の現地調査ほか）、竹崎宏基東京大学博士課程（二〇一九、

二〇二一年にボストン美術館石橋財団アシスタントキュレーターとして現地調査の対応や近世絵画に関する調査の整理、本書の編集幹事を担当）により調査が進められた。また、鹿島美術財団の皆川

倫子事務局長による全体調整マネジメント、本書の膨大な図版のレイアウトや和文・英文の作品情報を併記する体裁には、中央公論美術出版社の鈴木拓士編集部長に長期にわたり粘り強く担当いただき、プロジェクト全体を進めた結果が本図録にまとめられた。

※ ※ ※

最後に私どもの財団について少し紹介させていただきます。設立は一九八二年十一月十六日。その目的とするところは、本文からおわかりのように、美術に関する調査研究助成、出版援助、国際交流援助、美術普及振興等を行うことにより、美術の振興をはかり、もって我が国の文化の向上、発展に寄与することにあります。

どうか、この意を御理解のうえ、ますますのお力添えを賜れば、ありがとうございます。



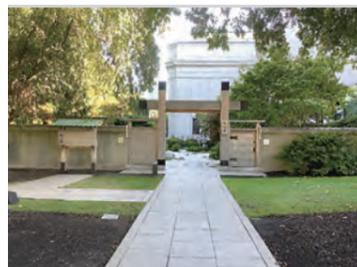
ボストン美術館 日本美術総合調査図録
(中央公論美術出版 定価46,200円)

筆者略歴

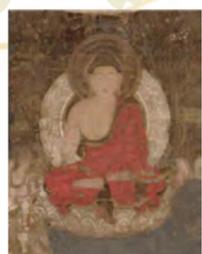
一九四八年、静岡県生まれ。
早稲田大学商学部卒。
一九七一年、鹿島建設(株)入社。
営業本部企画部企画課長、建築設計本部総務部秘書課長、同本部次長を経て、二〇〇八年より(公財)鹿島美術財団常務理事。二二年より専務理事(代表理事)。



(公財)鹿島美術財団
専務理事
高橋 司
(たかはし つかさ)



ボストン美術館の庭園(天心園)の入口



法華堂根本曼荼羅図
(本書 I-1)



快慶「弥勒菩薩立像」
(本書 II-33)



狩野松栄「京名所図等扇面 清水寺」
(本書 VII-45)



司馬江漢「秋景芦雁図」
(本書 XVI-7)



橋本雅邦「騎龍弁天図」
(本書 XVI-10)

ボストン美術館 日本美術総合調査図録より

石橋財団アシスタントキュレーターとして現地調査の対応や近世絵画に関する調査の整理、本書の編集幹事を担当）により調査が進められた。また、鹿島美術財団の皆川

「絲綢之路」

100号までの歩み

財団が創設されて三十三年余。世の中の流れと同様に財団は、順風満帆の道を歩んできたわけではありません。そうした思い出の集積が、この100冊の中に……。

財団専務理事
小宮浩
(こみや・ひろし)

創刊号をめぐって

財団の前身である「財団法人・文化財保護振興財団」が誕生したのは昭和六十三年（一九八八）六月のことでした。初代理事長には、財界の重鎮であった鹿島建設の石川六郎氏が就任されております。



「絲綢之路」第1号（創刊号）の表紙。敦煌莫高窟の九層楼が描かれている

財団の活動を多くの方々知っていたであろうという意図のもと、広報誌創刊の構想が実現したのは、財団が誕生してから一年後のことでした。創刊の日付は「平成元年（一九八九）九月二十七日 秋号」となっています。

誌名は財団創設の推進役でもあった平山郁夫先生の意を汲んで「絲綢之路」としました。発行は新春号、夏号、秋号と年三回となっています。

正直なところ、しばらくの間は暗中模索的なところがあつて、広報誌としての仕上がりはお世辞にも洗練されたものとは申せません。しかし、編集スタッフの意気込みは、十分伝わっている感はいたします。試行錯誤を経ることによって、わが「絲綢之路」も形式美を整えていったと申してよいかもしれません。平山先生の作品を使用した表紙と先生の手による誌名の文字、そして吉田左源二先生によるシンボルマークは、今も変わりません。ちなみに創刊号の表紙絵は敦煌の莫高窟でした。それゆ

た方たちは財界のリーダー格の方々が多かったか、とも思います。財団の活動が軌道に乗り始めると報告記事や企画記事に登場するのは、専門家の先生方に変わってゆきます。これはある意味、当然と言えば当然のことでしょう。

財団の設立に御尽力して頂いた先駆者の方々の多くは、幽明境を異にされておられます。初期の広報誌の中でお元気だった頃の御姿を拝見すると頭が下がります。

また、名誉顧問として長く励ましを賜った三笠宮殿下の訃報にも胸につまるものを覚えます。

そうした方々の中でも平山郁夫先生には、別の想いが残ります。先生がおしくなりになつたのは二〇〇九年の十二月二日です。

財団の創設から、運営に関してその基礎造りに尽力された先生への感謝の念をこめて、二〇一〇年の六十二号新春号から秋号の六十四号に至るまで追悼の記事を特集し



2010年は前年に逝去された平山郁夫理事長を偲んで、新春号は出世作「仏教伝来」、夏号は院展初入選の「家路」、秋号は院展出展作としては最後となった「文明の十字路を往く アナトリア高原 カップドキア・トルコ」が使われた

思い出に残る記事

創刊以来三十三年余、100号刊行となりました。また、表紙も先生の出世作である「仏教伝来」、院展初入選の「家路」、絶筆となつた院展出品作の「文明の十字路を往く」アナトリア高原カップドキア・トルコ」を使用させていただきました。

◎尼門跡寺院所蔵の文化財の保存・修復事業。これは平山理事長が美智子上皇后さまから相談を受けられたことを機に取り組んでいるもので、二〇〇〇年の三十三号（夏号）から登場しています。

◎流出文化財の返還。これは主にアフガニスタンより日本に流れてきた二〇二点の文化財をカプールの国立博物館へ返還するまでの経緯を報じたものです。

平山先生によって文化財難民と位置づけられた流出文化財の帰国までは紆余曲折の連続でした。文化財は結果的には無事、帰国を果たしたのですが、現在のタリバン政権下でどうなっているのか、気がかりです。「絲綢之路」に掲載されたこの一連の記事を目にしたイラク大使館より、わが国の流出文化財の救出にも是非、貴財団のお力を貸してほしいとの申し出があり、嬉しいものを覚えました。

え、節目の本号の表紙も敦煌です。広報誌が、いわゆるオールカラーになつたのは、第六十三号（二〇一〇年夏号）からです。これで媒体としての表現力の幅は大きく広がりました。

二つの財団の統合と大震災

話ほもどりますが、文化財保護振興財団は芸術研究振興財団と二〇〇四年四月一日をもって統合し、文化財保護・芸術研究助成財団となりました。そして、法の改正によって二〇一〇年四月一日に公益財団法人となり、今日の姿になりました。この間の経緯は、四十一号から六十三号にかけて逐一御報告しております。

そうした中、私たちは一九九五年の「阪神・淡路大震災」、二〇一一年の「東日本大震災」、二〇一六年の「熊本地震」と、三つの巨大地震に遭遇しています。その都度、募金をつくり、被災文化財の救済・支援活動に取り組みました。

◎日・中・韓文化交流フォーラム。文化と対話の力によって東アジアの安定と発展に寄与しよう、という平山先生の発想による提案に応じた中国・韓国の協力のもと、フォーラムは、平成十七年（二〇〇五）十二月六日にソウルで第一回が開催されました。以後、中国、日本という順で開催されていくのですが、途中、政治的な理由で開催が危ぶまれた時もありましたが、関係者の努力でなんとかクリア。一度も中止することなくフォーラム開催は十五回を数えました。しかし、ここに思わぬ大敵が出現。新型コロナウイルス感染症によって残念ながら本年もフォーラムは中止。三年連続中止となりました。このあたりの事情はくわしく御報告いたしております。

「絲綢之路」の今後

印象に残る記事というのは、他にも財団創設の動機の一つであった敦煌の莫高窟の保存事業への協力、これに伴う今も続く敦煌研究員の東京藝術大学における研修の支援事業。カンボジアのアンコール遺跡の保護に関する記事にも当時の財団の意気込みがうかがえます。

北朝鮮をめぐる政治的な課題が山積していて、この問題を解くのは至難のわざだと思えます。

そうした環境下にあつて、平山先生は同国を文化の力をもって国際社会に迎えるため軟着陸させようと考えておられました。それを行動に移したのが、高句麗壁画古

東日本大震災では、御存知のように地震発生に伴う大津波、原発事故などが重なり、被害は複雑、かつ甚大なものとなりました。私たちは、先の阪神・淡路大震災の際の経験をもとに取り組み方を検討していました。

そこへ一本の電話が入りました。文化庁からでした。

東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）を行うが、是非貴財団もよろしく協力してほしい。という要請です。もちろん、了解です。と即答したところ、現在、年度末で緊急を要するレスキュー活動の費用が融通つかないので、そのあたりの用立ては可能でしょうか？ とのこと。

これには民間人である私たちは驚きましたが、以後、当方が支援寄付金の受け入れ窓口となり、文化庁と二人三脚で被災文化財の復旧支援事業に携わってまいりました。

私たちのスタッフも現地へは何度も出かけました。あれから十一年、様々な角度で大震災と被災文化財の、その折り折りの現状を取りあげ今日に至っています。

この間、理事長の宮田亮平先生が文化庁長官に転身されたのは、ちょっとした事件（？）でした。

財団設立にかかった方たちへの想い

三十年という時間は長いようでも短かつたような気がします。広報誌の初期を飾つ



創刊号から第99号まで。パーミアン、アンコールワット、薬師寺の仏さまや神さまは今の世をどう御覧になっているのだろうか……

墳群の世界遺産登録への協力でした。先生は日本政府へ事の詳細な報告をされると共に、ユネスコとも緊密な連携を保ち、精力的に動かれました。結果、二〇〇四年に古墳群は世界遺産として登録されました。その間の先生の北朝鮮訪問等の記事は、日本のマスコミでは、取り上げられない内容のものが多かったように思えます。

最後に……

財団の運営は大変厳しいものがあります。このあたりの事情は毎回この広報誌を通して皆さまにお願いしている通りです。澤和樹理事長はじめ、事務方のスタッフ一同、最終回を迎えることのないよう努力いたしております。

どうぞ今後とも「絲綢之路」の御愛読を続けていただければ幸いです。

役員等のご紹介

当財団の役員等を左記のとおりご紹介いたします。
令和四年十月現在 敬称略/五十音順

◎理事 (十名)
澤 和樹 東京藝術大学 名誉教授・顧問
青柳 正規 学校法人多摩美術大学 理事長
専務理事
小宮 浩 当財団 専務理事
理事
石井 直 (株) 電通 相談役
伊東信一郎 ANAホールディングス(株)
特別顧問
滝 久雄 (株) NKB(株) ぐるなび
取締役会長・創業者
(公財) 日本交通文化協会
理事長
谷川 史郎 NTTアーバンソリューションズ(株)
社外取締役
西浦 忠輝 (特非) 文化財保存支援機構
副理事長
野口 昇 (公社) 日本ユネスコ協会連盟
顧問
鑑内佐斗司 東京藝術大学 名誉教授
◎監事 (二名)
西巻 茂 税理士
横田 尤孝 弁護士
◎評議員 (十九名)
上野憲一郎 (株) 三越伊勢丹 美術営業部長
浦井 正明 寛永寺 貫首
大杉 栄嗣 大塚オーミ陶業(株)
代表取締役社長
是枝 伸彦 (株) ミロク情報サービス
代表取締役会長
酒井 裕 (株) 精養軒 代表取締役社長
佐藤 一郎 東北生活文化大学 学長

白井 勝也 (株) ヒーローズ 代表取締役社長
高橋 明也 東京都美術館 館長
高橋 司 (公財) 鹿島美術財団
代表理事 専務理事
富田 淳 東京国立博物館 副館長
永井 浩二 野村ホールディングス(株)
野村證券(株) 取締役会長
長井 大地 読売新聞東京本社 事業局
事業戦略センター長
堀越 礼子 (株) 朝日新聞社 取締役
松本 浩司 (株) NHKエンタープライズ
代表取締役社長
門司健次郎 富士通(株) 富士通研究所
アドバイザー
◎顧問 (二名)
宮廻 正明 東京藝術大学 特任教授

賛助会員ご入会とご寄付を頂きました皆様

◎令和4年6月1日から9月30日まで 敬称略/順不同

☆賛助会員
○法人(維持)会員
公益財団法人 鹿島美術財団
○個人(正)会員
☆寄付金
○文化財保存修復・芸術研究等助成事業に対する寄付
ヤブーネット募金(72名様)

○尼門跡寺院文化財保存修復助成事業に対する寄付
○サールナート(インド) 野生司香雪の仏伝壁画保全支援事業に対する寄付
○東日本大震災被災文化財救援・復旧支援事業に対する寄付

お願い

(1) 尼門跡寺院文化財保存修復事業のた
めの募金のお願ひ
尼門跡寺院の文化財保存修復事業は、故
平山都夫理事長が上皇后から依頼を受け
て実施しているものであり、平成十二年
度から開始され平成二十九年まで二十
九件の文化財を修復しています。
今回は、中世日本研究所(京都)、中世日
本研究所財団(ニューヨーク)が中心とな
り、日本だけでなく世界から寄付を募り実
施しております。

(2) 昭憲皇太后大礼服研究修復元支援事業
のための募金のお願ひ
大聖寺門跡所蔵の昭憲皇太后大礼服は、
明治時代の西欧化、社会変化、殖産興業な
どを表象する大礼服であり、現存する最古
の昭憲皇太后所用の第一礼装です。貴重な
歴史資料であり、近代日本の象徴的遺産と
して文化的価値が高いものです。
経年劣化著しい大礼服の修復、欠失して
いる部分(スカート)の復元のため、令和
元年度から令和五年度まで募金を行い昭憲
皇太后大礼服の研究・修復・復元事業を実

施しております。
(3) サールナート(インド) 野生司香雪の仏
殿壁画保全支援事業のための募金のお願ひ
日本画家・野生司香雪は、昭和七年から
十一年、五年をかけて聖地サールナート(鹿
野園)の初転法輪寺で仏殿壁画を完成させ
ました。その仏殿壁画は、今では我が国在
外の近代芸術の文化財であり、また日本・
インドのみならず世界の人々との日本芸術
を介した文化交流の大切な記念碑となっ
ています。
日本画の大壁画は制作から八十有余年が
経ち、経年劣化が進み剥落が激しく保全措
置が必要となり、令和元年度から令和四年
度まで募金を行い、仏殿壁画の剥落止め、
古写真のデジタル化、壁画デジタル撮影等
の保全事業を実施しております。
募金のお振込み手続きは左記の銀行振込
又は郵便振替によりお願ひ申し上げます。
※郵便振替の場合、通信欄に「尼門跡」「大
礼服」「サールナート」とそれぞれお書
き下さい。
銀行振込 ①銀行名 ②口座番号 ③名義
①三井住友銀行 上野支店
②普通 6615500
③(公財) 文化財保護・芸術研究助成財団
※銀行振込の場合、振込者の確認が難しい
ため、領収書、お礼状の発行等の必要上、
財団事務局に事前にご連絡をいただける
と幸いです。
(電話:〇三・五六八五・二三二一)
郵便振替 ①振替番号 ②加入者名
①00160・5・12319
②(公財) 文化財保護・芸術研究助成財団
◎賛助会員ご入会並びにご寄付(前記のご
寄付を除く)のお願ひ

《賛助会員》

当財団では、財団の活動趣旨にご理解
ご賛同いただき、恒常的にご支援いただけ
る法人、個人の賛助会員を募集しています。
法人正会員 年額(1口) 50万円
個人正会員 年額(1口) 1万円
維持会員 年額(1口) 10万円

《ご寄付》

賛助会員の他に、ご寄付も随時受け付け
ております。ご寄付の方法は様々な方法が
ありますので、左記のとおりご紹介します。
詳細は当財団事務局までお問い合わせ下さい。
(電話:〇三・五六八五・二三二一)

(1) 銀行振込又は郵便振替

銀行振込や郵便振替でもご寄付を受け付
けております。

(銀行振込)

○三井住友銀行 上野支店
普通 6615500
○みずほ銀行 上野支店
普通 4478576
○三菱UFJ銀行 上野中央支店
普通 0796384

(郵便振替)

00160・5・12319
※口座名義は、銀行、郵便局、いずれも
(公財)文化財保護・芸術研究助成財団
※銀行振込の場合、振込者の確認が難しい
ため、財団事務局に事前にご連絡をいた
だけると幸いです。

(2) インターネットによるご寄付

次の手順によりインターネットから、ク
レジットカード又はTポイントによるご寄
付(募金)を受け付けています。
←「YAHOO! JAPAN ネット募金」
←「文化・スポーツ」
←「文化財保存修復支援募金」
←「クレジットカード」又は「Tポイント」を選択

← 募金

(3) 特定寄付信託

信託した金銭を運用収益とともに寄付す
るものです。当財団は、みずほ信託銀行と
特定寄付信託に関して契約しています。
詳細は左記にお問い合わせ下さい。
みずほ信託銀行
(電話:〇三・三三二七四・九二〇三)

(4) 遺贈

「遺贈」によるご寄付・相続財産のご寄付
を承っております。
「遺贈」とは、遺言により、ご自分の財産
を特定の人や団体に分け与えることをい
います。受取人として、法定相続ではなく遺
言書により、一部又はすべての財産の受取
人として、公益財団法人文化財保護・芸術
研究助成財団をご指定いただくことができ
ます。

財団に寄付をされた場合、相続税の控除
を受けることができます。

遺贈をご検討いただく際は、お電話か
メールにて当財団までご相談下さい。

(5) 商品券・図書券等による寄付

ご家庭のタンスや事務室の机の中等で
眠っている、未使用の商品券、図書券、切
手、収入印紙、ビール券、お米券、旅行券、
QUOカード、テレホンカード、書き損じ
葉書等もご寄付として受け入れております。
お送りいただく場合は、当財団事務局宛
てに封書にてご郵送下さい。

● 税法上の優遇措置

当財団は、「公益財団法人」としての認定
を受けておりますので、賛助会費・寄付金
(募金)には税法上の優遇措置が適用され、
所得税、法人税等の控除が受けられます。
詳しくは当財団ホームページでご確認いた
だくか事務局までお問い合わせください。



澤相樹 1985年
敦煌鳴沙

今号の表紙

平山都夫
敦煌鳴沙 1985

本作品は一九八五年の第七十一回の秋の
院展に「敦煌三危」と対で出品されたもので
ある。描かれている莫高窟は、砂漠の画廊
と称され、窟内に描かれている壁画は世界
的にも極めて貴重な
仏教美術と評価され
ている。
シルクロードの画
家・平山画伯にとっ
て敦煌は憧れの地で
あった。初めてこの
地を訪れた時の感動
を画伯は、こう記し
ている。
「ついにやって来

お知らせ

澤理事長CDプレゼント
新規に賛助会員に入会された方、及び三
万円以上ご寄付を頂いた方全員に当財団理
事長澤和樹演奏のCD「いのり」をプレゼ
ントします。
この機会に賛助会員ご入会、ご寄付を
おまちしております。
なお、既に賛
助会員になられ
ている方には今
年度会費納入時
にお届けします。

編集後記

地球の温暖化が進んでいる証でしょうか。
年々夏の終わりが遅くなっているようです。
この夏から秋にかけて、歴史的な事件が
二件ありました。安倍晋三・元首相と英国の
エリザベス女王がお亡くなりになり、共に国
葬によって旅立たれました。御冥福を心より
お祈り申し上げます。
本誌も本号をもって100号となりました。
バックナンバーをひも解くと、あの日、あの
時の財団の動きが如実に目に浮かんでしま
す。次の100号が刊行できるよう、財団を運営、
維持していくことが私たちの使命と思っ
ております。そのためにも皆さま方のお支
援の御支援、御協力をお願いいたします。次
号です。よろしくお願ひ申し上げます。

広報誌「絲綢之路」(シルクロード)
二〇二二年 秋号 通巻第一〇〇号

★令和四年十月二十五日発行
★編集発行/公益財団法人文化財保護・
芸術研究助成財団 事務局◎
〒110-0007 東京都台東区上野公園十二一五
電話(〇三)五六八五一一三三
FAX(〇三)五六八五一一三五
URL:https://www.bunkazai.or.jp/
E-mail:jimukyoku@bunkazai.or.jp

★印刷 篠田印刷株式会社